

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における ひびきが丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。尚、本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されるような公表の方法については、配慮しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されるような公表の方法については、配慮しています。

ひびきが丘 小学校 「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成26年度 (理科：平成24年度)	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成27年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・話すこと・聞くことや書くこと、読むことなど言語についての知識・理解など基礎ができていた。
	よくできた問題	・説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する問題については、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・文の主語として適切なものを選択する問題については、正答率が低かった。
国語B	全体的な傾向や特徴など	・記述問題に対しても、苦手意識を持たず、粘り強く取り組むことができるようになった。 ・国語への関心・意欲・態度も高く、読んだり、書いたりする力も付いてきている。
	よくできた問題	・声に出して読むときの工夫とその理由を書く問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する問題の正答率が低かった。
算数A	全体的な傾向や特徴など	・整数や分数の四則計算においては、ほぼ定着している。しかし、数量の関係を捉えたり、図形の性質を理解することに課題がある。
	よくできた問題	・除数が整数である場合の分数の除法の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解させる問題の正答率が低かった。
算数B	全体的な傾向や特徴など	・数と計算においては、基礎ができていた。しかし、数量関係を捉えたり、図形の性質を捉え活用したりする問題に課題がある。
	よくできた問題	・示された図形の色が付いた部分の面積を求める問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・単位量当たりの大きさを用いて、買い物の仕方を選択し代金を求める問題の正答率が低かった。
理科	全体的な傾向や特徴など	・実験や観察を基に考え、なぜそう考えたのか判断の根拠について明確にし、理由を説明する問題には課題があった。
	よくできた問題	・メスシリンダーの名称を書く問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・水の温まり方の予想を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を選ぶ問題の正答率が低かった。

⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

- ・「朝の読書」などの一斉読書の時間の確保はできている。そのため、読書好きな児童も全国に比べ多い。
- ・授業で扱うノートにめあてとまとめを書くように指導したり、学級やグループで話し合う活動をしたりしてきている。しかし、学級やグループの中で自分達で課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習機会は、与えられていないと答えている児童が多い。今後は、児童自ら課題を設定し解決していく授業を行っていく。
- ・どの教科も無回答率は減ってきているものの、理科においては、基礎的・基本的な内容の定着と活用に課題があった。観察や実験を行う際には、予想を立て、結果を基に考察し判断の根拠について明確にする授業をていねいに行っていく。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・平日や休日など家庭での学習時間が1時間未満と回答した児童の割合は、全国に比べて高い。家庭学習の具体的な取り組み方を指導する必要がある。また、自分で計画を立てて勉強している児童の割合も全国より低く、課題である。

・授業以外の読書時間については、ほぼ全国平均並みである。

② 生活習慣等に関する調査結果の分析

・朝食を毎日食べなかったり、就寝や起床時間が一定しなかったりなど、基本的な生活習慣が定着していない児童が全国より多い。

・1日の内で、テレビやビデオ・DVDを見たり、テレビゲームをしたり、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする児童が全国平均に比べてかなり多い。

・将来の夢や希望をもっている児童の割合は、全国と比べてかなり高い。それぞれの目標を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組（全校・学年・学級・教科毎の取組）

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

・学力向上に関する職員研修の実施（11月中旬）

（全国学力・学習状況調査の結果と昨年度末のCRTの結果と一学期の児童の様子を踏まえ、課題把握と取組について・取り組みの反省）

・実態に合った授業の工夫

○国語では、主題研究とも連携して言語活動を工夫して目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりすることを充実させる。

○算数では、授業において、基礎基本の定着を図るとともに、自力解決のあとの話し合い活動を大切に授業を行う。

○理科の授業においては、まず、分かる授業を行うことが重要である。そして、課題・予想・実験（観察）・結果・考察の授業の流れを大切に授業を行う。

・11月の研修の際に「総合的な学習の時間」の授業の在り方について見直し、児童自ら課題を設定して解決していく授業を行っていくように確認する。また、地域での体験活動やゲストティーチャ（地域の方）の活用を図る。

・学力向上のための全校一斉特設時間の継続

（月・水）十分間読書 （火）漢字・辞書引き （木）計算練習 （金）視写

・朝自習の時間にアシストシートをする。

・過去問題、活用力を高めるワーク等は、長期休みを中心に宿題に出す。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・全国学力・学習状況調査の課題と取組を学校だよりや学校ホームページ、PTA理事会、保護者会などで保護者に周知し、朝食・就寝・起床時間の現状、テレビやゲーム・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットの活用の状況については、もう一度家庭での約束を確認していただく等、理解を促す。

・家庭学習においても、11月の職員会議にて内容や時間において共通理解を図り、各家庭に家庭学習の手引きを配布する。学年によって、およその時間（1年・2年30分程度 3年・4年45分程度 5年・6年60分以上）を設定したり、学習内容のモデルを提示するなど宿題のスタンダード化を図る。

・「家庭学習チャレンジハンドブック」については、毎月、月末に学校で集め、自分で学習の計画・実行・振り返りができているか学校で確認し、指導するようにする。

・夏休み開催の「中学校区・三校人権研修会」の際にも、小中で家庭学習の取組の仕方、ノートの使い方等の共通理解を図る場を設定し、二学期からの指導に役だてる。

・冬休みや春休みの宿題にアシストシート、活用力を高めるワーク、全国過去問題などをする。